出前講座報告書

福島県立医科大学

性差医療センター
災害医療総合学習センター
医学部公衆衛生学講座

1回目 平成27年10月5日　ピカリンホール
2回目 平成27年11月9日　会津保健福祉事務所

Vol.7

ニュースレターの発行がすっかり遅れてしまいましたが、どうぞ
この機会に、ヘルスリテラシー研修の振り返りをしてください。

ヘルスリテラシー
～健康情報を使う力、伝える力～

ヘルスリテラシーは、健康に関する情報を住民が入手して、理解し、使おうとする知識と技術だけでなく、保健医療従事者側が伝えるスキルまでをも含みます。この研修では、伝えるスキルに注目しました。

講義の様子

第1回目は、ヘルスリテラシーの概念と重要性に続いて、健康情報のわかりやすさを評価するツールについてでした。課題の文章のわかりやすさを、グループで評価する演習を行いました。第2回目の内容は、健康情報をより分かりやすく改訂するテクニックについてでした。自分たちの職場で実際に使っている健康情報を、より分かりやすくするにはどうすればいいかをグループで話し合いました。

アンケート集計結果

1回目の参加者は17名、アンケート回収は13名、
2回目の参加者は16名、アンケート回収は12名

評価項目	「そう思う」* 1回目	2回目
研修の資料や進行について		
配布資料は適切だった	85%	91%
時間配分は適切だった	46%	100%
進行は適切だった	85%	100%
研修の内容について		
講義について理解できた	77%	83%
講義は今後の保健活動に役立つと思う	85%	100%
話し合いは今後の保健活動に役立つと思う	77%	100%

*5段階評価：「1．全くそう思わない」～「5．大いにそう思う」の４と５の合計

２回目の方が研修の運営と、学んだことが役立つかどうかの評価が高くなっていました。

「文書作成や説明する時、何を伝えたいのか、伝えなくてはいけないか、どうすれば伝わりやすいかを考えて仕事をする」

一か月後の振り返り

1か月後アンケート配布は17名、回収は17名でした。53%が「学んだことを保健活動に生かせた」と回答しました。特に2回参加者ではその割合が67%と高い結果でした。また、「健康情報の分かりやすさを評価して、より分かりやすく改訂する自信がついた」と回答した人は、全員2回参加者でした。自分で資料を読み直す、保健活動に応用してみるなど、ご自分で繰り返し学習を続けてみてください。

復習ポイント

参加者の自由意見に含まれているキーワード（下線）について、覚えていますか？

「ピクトグラムを場合に応じて使用してみようと思いました」

「住民向けに作ってきた資料等を、是非、マーカー法で良いものに修正していきたい」

「先行オーガナイザーはやってみたい！新聞記事のようで忙しい人もパッと概要がわかるので良い」

講師紹介

福島県立医科大学
医学部公衆衛生学講座
後藤　あや先生

平成7年山形大学医学部卒業。平成10年米国ハーバード大学公衆衛生大学院修士課程（国際保健学）修了、平成12年山形大学大学院医学研究科博士課程（公衆衛生学）修了後、米国ポピュレション・カウンシルのベトナム支部勤務を経て、平成14年より福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座、現在、准教授。福島県の県民健康調査「妊産婦に関する調査」の副室長兼任、日本公衆衛生学会モニタリング・レポートシステム委員。平成24年から1年間、ハーバード大学公衆衛生大学院武見国際保健プログラム研究員。専門領域は、母子保健、国際保健、疫学、人材育成。

編集後記

ヘルスリテラシーは、ツールの使い方さえ分かれば、後は実施活用していくことが大事になってきます。分かりやすい情報をつくるプロセスは、事業目的の確認、チームワークの向上、そして提供するサービスの向上にまでつながります。是非、ツールを使ってみてください。（後藤）